

友だちがいてよかったな

平島小学校 二年

清光 きよみつ 優里 ゆうり

（敬称略）

わたしは、一りん車が大すきです。休みじかんには、ともだちと一しよに手をつないでのったり、きょうそうしたりしてたのしくのっています。でも、いまのようにじょうずにのることが出来るまでには、たくさんれんしゅうしてきました。

さいしよは、なかなかうまくのれず、手すりをもつてのるれんしゅうをしました。友だちと一しよに手すりにつかまって、話をしたり、わらいあったりするのは、とてもたのしかったです。うまくなってくると、かた手だけで手すりをもって前にすすむれんしゅうです。そのときこんなことがあります。かた手をはなして一りん車にのっていると、中でふらふらしてこけてしまいました。じょうずになってきたと思っていたのに、くやしかったです。ひじやひざもうって、とてもいたくてつらかったです。

そのとき、友だちが、

「だいじょうぶ。」

「いける。いたかったな。」

と、やさしくきいてくれました。そして、そのあとれんしゅうを手つだつてくれました。こげなかつたばしよもずっと手をもってくれました。わたしは、つらかった気もちがふきとんで、心がほっとしました。そのあと、つづけてれんしゅうしていると、まわりの友だちも、

「いいね。」

「すごい。」

と、言ってくれました。一りん車にのるときは、いつも友だちと一しよで、友だちと一しよだからわたしもがんばろうという気もちになります。そして、わたしも、もし友だちがこまっていたら、友だちがわたしにしてくれたように、やさしくしてあげたいです。友だちがいてよかったな、と思います。

わたしは、たくさんみんなに手だすけしてもらって、一りん車にのれるようになりました。ずっと友だちを大せつにしたいです。